

京都府

災いと恵みをもたらす水

福知山市立大江中学校 三年

荒賀 琴巴

私の住む町、大江町はよく洪水にさらされる。家の前の道路は浸水し、次の日には泥がたまっている。家の中にも水が入ってしまう所もある。また、四国地方では雨が降らず、水不足の渇水に悩まされていると、社会の授業で勉強した。普段からそこにある水の恐ろしさ、大切さを忘れてしまっていないか。水は、私達に恵みをもたらし、ときには災いを与える。私は、水との向き合い方を考えていきたい。

小学校六年生の夏。大きな台風が私たちの町をおそった。私の家の前を流れる川が氾濫し、水はすぐそこまで迫っていた。家の中からも感じる、すぐそばに流れる水の音。私は家の中まで入ってくるのではないかと、とても不安だった。一時的だが、停電し断水した。

翌日、泥が周囲一面に広がり、たくさんのが流されていた。自転車や洗濯機が流された人もいた。子供、大人関係なく全員が総出となって協力し、町を綺麗にした。複雑なのは、町をめちゃくちゃにしたのは水だが、綺麗にしたのも水だということだ。地域の消防団が大まかに泥を洗い流してくれたおかげで、町は少し元の姿を取り戻した。しかし水の強さ、怖さ、大切さを胸に刻まれた。

私たちに欠かせない水。今まで、当たり前前にありすぎて意識してこなかった。しかしもし、もっと長い時間断水が起こったり、水の量や勢いが増したりしていたらどうなっていただろうか。お風呂やトイレに行きづらくなるだけでなく、家の中に水が入り、安心して過ごせないだろう。心身ともに疲労し、傷を負う。私たちの「当たり前」の生活ができなくなり、命にかかわる可能性もあるのだ。改めて水の大切さを、強く感じた。

そして「私たちは日頃、豊かな水に恵まれている」と、消防団の人が言っていたことを思い出した。断水が起きても生きていけるのは、今まで貯めてきたきれいな水があるから。町が泥で覆われても綺麗になるのは、ダムの水をたくさん使えるから。私は「水に恵まれている」という意味をやっと理解した。

「当たり前」にそこにある水で、救われる命や、町がたくさんある。大江町のように、町が泥で覆われても、断水しても、毎日流れている豊かな水が救ってくれる。だから、私は豊かな水に感謝を忘れず、一滴も無駄にしない。「水は、循環し私たちに届く」と理科の授業で習った。だがそのサイクルは、奇跡のようなものだと思っていた。私たちは、水そのものだけではなく、環境を含む水に、恵まれているのだ。例えば、雨を運ぶ雲、川に雨を流す山、川や海の水を保全し私たちに水を届ける人、どれか一つでも欠けていたら、水の循環は止まる。川の流れが止まることのない環境にいる。そう思うと、私が毎日使う水に深みが増し、感謝の気持ち湧いてきた。水があふれ出すように。そして、私たちは水害についても考えていかななくてはならない。日本は毎年、台風や地震によって様々な水害を受けている。しかしどんなに環境に恵まれていても、災害を止めることは、できない。だから、水の怖さと大切さを知る。水の良し悪しを知った上で、私たちは安心して過ごせると思う。

水は今日も循環し、たくさんの人を救っている。意識する人は少ないかもしれないが、私たちに欠かせない大切な存在。これから私は、水への感謝と怖さを忘れず、水を一滴も無駄にしない。この一滴がめぐりめぐって町や人を救うのだから。そして、水が他にどんなことをもたらしているか知っていきたい。

この先もずっと、水と共に生きていけるように。水はあなたにどんなことをもたらしているだろうか。よく考えてみてほしい。